

## 令和3年度第2回富山県職業能力開発審議会 議事要旨

日時 令和4年3月28日(月)  
午前10時～11時30分  
場所 富山県民会館701号室

○出席者（委員10名、特別委員5名、富山県技術専門学院見直し検討部会委員1名）

＜労働者代表委員＞ 長委員、森川委員、和田委員

＜事業主代表委員＞ 根塚委員、東出委員

＜学識経験者委員＞ 瀬尾委員、高橋委員、賞雅委員、田中委員、中村委員

＜特別委員＞ 伊豆特別委員、清原特別委員、久住特別委員、相楽特別委員、清水特別委員

＜富山県技術専門学院見直し検討部会委員＞ 岩本委員（特別参加）

## 1 開 会

### 2 富山県商工労働部長挨拶

本日、富山県職業能力開発審議会を開催いたしましたところ、本当に皆さん御多用のところ出席をいただきましてありがとうございます。委員、特別委員の皆様、そして、本日は検討部会の先生にも特別に御参加をいただいております。本当に皆さんありがとうございます。

この審議会につきましては、前回は5月に開催し、第11次富山県職業能力開発計画の策定について、本当に幅広い観点から積極的な御意見をいただきました。この計画の策定に御尽力いただきましたことに改めて御礼を申し上げます。

さて、県では、御案内のとおり、この公共職業能力開発施設といたしまして県の技術専門学院を運営しております。これまで職業に必要な知識ですとか技能の習得に向けた職業訓練を実施して、県内産業を担う技術者等の職業人を育成してまいりました。しかし、近年では、定員の充足率が必ずしも高くない科も存在するなどの課題を抱えております。

また、この職業能力開発を取り巻く情勢に目を向けますれば、人口減少ですとか少子高齢化、求人・求職のミスマッチ、産業構造の変化、新型コロナの影響、もちろん社会全体のDXの加速化等、情勢は大きく変化をしております。

そうした中で、新たな成長分野の人材育成、そして、県内産業のニーズを踏まえた質の高い職業訓練の実現に向けまして、技術専門学院の訓練科ですとかカリキュラムの改善、見直しにつきまして、この審議会の下部組織という形で、富山県技術専門学院検討部会を設置いたしまして検討を進めてまいりました。

本日は、この検討部会でいろいろと議論してまいりました技術専門学院の訓練見直しの案を御報告させていただきまして、この審議会としてさらに御議論をいただきたいというふうに思っております。

委員の皆様には忌憚のない御意見をいただきますようお願いし、開会に当たりましての挨拶とさせていただきます。

なお、私は本日公務のため、申し訳ございませんが、これにて退席をさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

- ・ 委員紹介
- ・ 配布資料の確認

### 3 議題

#### ● 議長

皆さん、おはようございます。前回、5月24日の第1回で、第11次の開発計画を皆さんに承認していただいて、知事の方に答申をいたしました。前回、その中で、技術専門学院の訓練見直しをしようということで、部会をつかって御検討いただいて、その結果について、今日は皆さんに御意見をいただきたいということでございます。

それでは、検討部会で検討されました訓練見直し(案)を御説明いただきたいと思いますので、一括して事務局の方から御説明いただき、審議会として審議をしたいと思います。

それでは、事務局、よろしくお願ひいたします。

#### (1) 協議事項 富山県技術専門学院訓練見直し(案)について

事務局(労働政策課長)より、資料に基づき説明

- 資料1 R3技術専門学院訓練科目の見直しスケジュール
- 資料2 富山県技術専門学院の訓練科の見直しについて
- 資料3 訓練科の見直しの考え方(案) / 技術専門学院訓練科の現在と見直し後
- 資料4 学卒者訓練 / 離転職者訓練の見直しの方向性について
- 資料5 今後の富山県技術専門学院見直しの考え方、検討・実施時期について(案)

#### について説明

まず、資料1から御説明させていただきます。こちらは、これまでの見直しのスケジュール、どういう形で行われてきたかという資料になりまして、6月に計画を策定してから7月に検討部会を設置いたしまして、第1回の部会を8月に、第2回を9月に、第3回を1月に行い、先般、3月の第4回の検討部会におきまして見直し(案)の方向性を固めさせていただき、本日の審議会に至るといふ流れになってございます。

また、今回見直しを提示させていただいております離転職者向け短期訓練科の新設については、令和6年4月以降の新設を目指すということで考えております。

続きまして、資料2でございます。これまでの大きな流れと部会での議論、取りまとめ内容についてサマライズしたのになります。

まず、部会立ち上げの経緯としまして、技専の抱える課題として、定員充足率の低い科が存在すると。また、経済社会を取り巻く情勢として、DXの加速化など大きく変化している。また、建設分野等で一層の人手不足が深刻化していると。こうした状況を踏まえて、企業や求職者のニーズを踏まえた質の高い訓練実現のため、訓練科やカリキュラムの改善、見直しに取り組むべく、部会を設置させていただきました。

部会での議論としましては、企業や求職者のニーズを把握するためニーズ調査案を議論いただき、そのニーズ調査の結果を基に訓練科の見直し(案)を御議論いただきました。

取りまとめの内容としまして大きく3つ挙げてございまして、デジタル技術の利活用等ができる人材の育成ということで、その関連のカリキュラムの充実、CAD関連学科の新設と。2つ目、建築人材の育成、特に人手不足分野であるということからですね。また、科名について、求職者や高校生にも分かりやすい、あるいはPR効果の高いような科名に見直しをさせていただいております。

続きまして、資料の3と4に基づきまして説明いたします。資料の3が見直しの考え方の全体像を示した見取図になっております。資料3-1が訓練科の属性ごとに整理したものでして、資料3-2が、富山市と新川と砺波にございます3つの学校ごとにどう変わるかというのを整理させていただいたものです。

詳しい見直しの考え方やニーズ調査の中身は資料の4の方でございますので、基本的には資料の4の方を御説明させていただければと考えております。適宜、資料3-1を御参照いただければ幸いです。

それでは、資料4に基づきまして御説明を申し上げます。まず、資料4-1、学卒者訓練、こちらは高校を卒業した方の受講を想定している2年の科となります。左に訓練科の概要ですとか現状と課題、真ん中にニーズ調査の結果、一番右側に見直しの方向性の案の記載がございます。以下のその他の科名も全て同じ構造になっております。

まず、自動車整備科では、2年間エンジン組立てなど自動車整備の訓練を行っております。現状と課題としまして、入学率は非常に高いですし、就職率も高いということがございます。真ん中のニーズ調査の結果で、全事業所で不足している年齢層・職種は若年層、技能職というのが高いパーセンテージになっております。また、これはその他ニュース等でのソースになりますが、全国的に自動車整備士は不足しているという状況にあります。受講者（高校生）の進学先として興味がある学科は3科で真ん中の13.8%となっております。広報媒体で、いわゆるSNSというのが有効ではないかというふうになっております。右側、見直しの方向性ですが、大きな課題はないということで、現行のまま継続したいと考えておりますが、ただ、自動運転ですとかEV化といった話もございますので、その講習会やEVの教材車両の導入などをしていければと思っております。また、広報としてはSNSや動画の活用ですとか、そういうことも取り組んでいきたいと思っております。

下でございます。メカトロニクス科になります。こちらは、工作機械の操作と制御技術などを訓練として行っております。入学率は7割程度というところで、就職率は非常に高くなっています。真ん中のニーズ調査ですが、事業所（全事業所）で先ほどと同じように不足している年齢層は若年層、技能職と。また、ものづくり系の事業者の方に聞いた結果で、CAD/CAMを使う業務の人材充足度としては不足しているとされていまして、採用希望年代も若手の作業員の方をはじめ設計といったところも不足していると。技専での育成希望も高いとなっております。高校生の調査で、DX関連で興味がある内容ということで、プログラミング、AI、ロボット・FA技術というものも上位になっております。また、進学先として興味がある学科は、メカトロニクス科は3科で最も低い7.2%という状況になっております。

対応としまして、DX（IoT、AI等）の導入が今、製造の生産現場で進んでおりますので、そういったものに対応できるように、カリキュラムをより充実したらどうかと、また、科名も変更しまして、少しイメージの刷新を図ってはどうかと思っております。見直し内容としまし

て、科名を、例えば、機械・制御エンジニア科と。機械エンジニア科というのが工作機械の操作というイメージでして、制御エンジニアというところでロボットですとかF Aへの対応と、産業ロボットの制御ですとか、そういった要素も分かるように盛り込んではどうかというものになります。訓練内容の充実としまして、これまでの工作機械操作、制御技術の習得に加えて、工場の自動化に対応するための訓練環境の強化というところで、ロボットを活用した製造ライン制御訓練の導入をより一層拡充していきたいと思っております。

続きまして、1枚おめくりいただきまして、電子情報科、資料4-2になります。一番左、訓練科の概要でございますが、こちらはコンピューターのソフトウェア技術とハードウェア技術の両方を学ぶという科になっております。現状と課題としまして、入学率は約7割、就職率は非常に高いという状況です。真ん中のニーズ調査でございますが、不足している年齢層・職種は先ほどと同じように若年層、技能職、あと、専門技術職も非常に高いということになっております。デジタル人材の充足度も全事業所に聞いておりますが、「不足」あるいは「今後不足」と答えられたところが約74%と非常に高い割合になっております。事業者でITベンダーの事業者さんに聞いたのがその真ん中でありまして、人材充足度としては全ての職種で不足している。希望年代としまして、技術作業員で若手が約8割、技術管理者等も不足しているところかと思っております。採用の希望学歴としましては、大卒が一番高いですが、職業能力開発校卒、学歴関係なく採用というのも3割ということで非常に高い割合になっております。技専での育成希望も高いと、特に技術作業員が高くなっております。

受講者（高校生）の調査ですけれども、先ほども触れましたが、DX関連で興味がある内容は、プログラミング、AIが高くなっています。進学先として興味のある学科としても電子情報科は23.9%ということで一番高いと。あれば進学を希望する学科という問いに対しても情報処理系というのがかなりの割合を示しております。

見直しの方向性ですが、ある程度柔軟なカリキュラム編成が可能というところで、IoT技術の活用で業務上の問題を解決できる人材を育成するため、訓練内容を充実したいと考えております。

科名につきましても、まず、電子情報/IoT科というふうに、IoTの充実というのが分かる科名にしてはどうかと考えております。

訓練内容の充実ということで、2年次にIoT技術を活用した実習の導入、具体的には、センサー組み込みマイコンを活用したデジタル制御や回路組立て実習などを想定しております。

資格としても、IoT関連の資格を取れるようにすることも検討しております。

続きまして、資料4-3でございます。ここから以降は、離転職者向けの訓練の見直しの方向性になりまして、まず、製造・設備分野の2科でございます。

上の金属科の関係でございまして、金属加工科と金属ものづくり基礎科という2つがあります。現状と課題として、入校率は直近5年の両科合計で33%ほどと低いというのが課題になっております。一方で、就職率は8割ということで、高い就職率を維持しております。

真ん中のニーズ調査の結果ですが、不足している年齢層・職種ということで、繰り返しになりますが、若年かつ技能職というのが足りていないと。事業者さんに聞いた役立つと思う職業訓練コースということで金属加工科が13.7%で、2番目に高いという結果が出ています。また、ものづくり系の事業所の皆様に聞いた問いで、CAD/CAMを使う業務の人材充足度は不足して

おりまして、希望年代の若手の作業員が高いと。技専での育成希望も高いですと。また、機械による自動化が困難な作業のある事業所の皆様が希望する訓練コースというのを聞いておりまして、やはり手作業というか、そういう技能という意味で金属加工科、金属ものづくり基礎科というのは非常に高い8割、6割という事業者さんが希望されております。

これは参考情報ですが、県内の訓練校は2施設のみ、ポリテクセンター様と技専だけであると。

一方で、受講者は、これは全体の話ですが、技専を知らなかったという人が5割ほどというふうな話もございます。

見直しの方向性として、若者や女性に訴求する訓練、広報というのをしたらどうかということで、3Kイメージでどうしても敬遠されがちですので、作図やオペレーションを訓練するコースを新設するとともに、広報活動も強化していきたいと思っております。

右側、金属加工科、金属ものづくり基礎科の中で拡充となっている箇所ですが、機械板金技能とCAD、プラスチックで作図のCADというところがございます、これは従来から一部取り入れておりましたが、さらに拡充して実施をしていきたいというふうに考えております。

また、留意事項のところがございますが、今、溶接のシミュレーターができるような装置もございますので、そういったところにも整備をしていければなというふうに思っております。

下でございます。環境エネルギー設備科になります。こちら長期と短期で1年と6か月ということで、いわゆる配管ですとか電気関係の訓練をするコースになっています。こちらの入校率は直近5年で50%というところで、低いという状況でございます。また、就職率は7割程度ですが、近年は少し低下傾向がございます。

今回、ビルメンテナンスの業種の方にアンケートを取っておりまして、人材の充足度は、清掃員ですとかいろいろな設備、機器の保守管理ができる作業員が不足しているという結果が出ています。採用希望年代としましても、電気設備の保守点検というのが4割ほどと。技専での育成希望も「希望する」というのが「希望しない」を上回っております。ボイラー協会様からの要望でも、ビル管理の人材不足ですとか、そういった声がございます。

求職者の方のニーズ調査としまして、あれば受けてみたいコースでビルメンテナンス関係というのも15.5%とそれなりの割合でございます。

こうしたことを踏まえまして、環境エネルギー設備科というところに近い領域ではございますので、女性ですとか中高年等の受講を念頭に、少し体への負担も少なめという学科の導入というのはできないかということで、ビルメンテナンス科というのを短期（6か月）でつくりたいと思っております。こちらでは、ビルや施設の保守管理に必要な技能の習得、ボイラー技士訓練ですとか、そういった訓練を考えておりまして、ボイラー関係の資格ですとか、そういう資格を取れるようにしてはどうかと。女性や中高年向けの見学会や座談会などで広報もしていければと考えております。

これまでやっていた既存のコースにつきましては、住宅設備科ということで、一目で何をやっているのか分かる科名にした上で、1年コースはやめて短期のみにして再編してはどうかと考えております。

続きまして、1枚おめくりいただきまして、資料4-4でございます。こちらからは建設・ものづくり系分野の3科になります。

一番上が木材加工科で、その下がエコ住宅リフォーム科になります。こちらは現状と課題を一括して御説明させていただきたいと思っております。

木材加工科は、本校で実施しております、いわゆる家具ですとか建具の製作を行っております。入校率は61%ということで低い、近年低下しているという状況にあります。就職率は8割程度でございます。

一方で、エコ住宅リフォーム科は、建築やCADの訓練をしております、長期（1年）と短期（6か月）のコースになっております。入校率は52%というところで、こちらも低いという状況にあります。ただ、女性は3割ほどということで、30代から50代の中で高めになっております。就職率は7割弱というところですが、近年、低下傾向にあるということでございます。

こうした課題を踏まえて、ニーズ調査でも色々と聞いておりました、真ん中でございますが、土木・建設系の事業所の方に聞いた内容になります。人材充足度として、全ての職種が不足しているという結果が出ておまして、特に作業員、主任技術者については6割超になっております。採用希望年代の作業員では若手が6割超で、主任技術者等も高い割合になっております。技専での育成希望は、作業員、主任技術者が5割超と。また、DX関連でCADなどの技術も聞いておまして、これも導入している事業者さんが非常に高い割合で66%ですが、人材は不足している、また、希望年代としては若手、育成希望も48%ほどございます。

下の方を見ていただくと、エコ住宅リフォーム科のところのニーズ調査でございます。こちらは、ものづくり系の事業所の方にCAD/CAMについては人材が不足しているという結果が出ております。また、全事業所さんに聞いていますけれども、新川センターにCAD関連科を設置すべきかという設問で、「設置すべき」というところは全体で24%ほど。また、これは製造業、建設業に絞りますと28%、29%と約3割の事業者様がCAD関連科の設置を希望されております。

受講者の方につきましても、あれば受けてみたいコースという設問で、全体で2割ほど、製造業、建設業希望の方に限定すると25%前後の方がこのCAD関連科を希望されておりますし、その下で、CAD関連科が設置されたら受講するかどうかというので、「受講してみたい」というのが製造業、建設業の方であれば3割強の方が受講してみたいという結果が出ております。

こうした調査結果を踏まえまして、この2科につきましても、右のように再編統合をしたいと考えております。

まず、建築関係というところで、若年者、女性の受講促進、あるいは就職幅を広げるために、建築デザインを含む建設分野全般に対応できる学科に再編したいと思っております。こちらも本校でつくるということにはなりますが、長期（1年）と短期（6か月）の2つのコースで、1年の方は総合建築科として木造建築一般と建築CADと。これは企業実習付きにしたいと思っております。また、短期（6か月）は建築デザイン科という名称にできればと思っております。

新川に建築関係の施設がある部分もございまして、そういったものの移管ですとか、建物の改修等が必要になってくるという状況です。

その下ですけれども、新川センターの部分を大きく移管するというので、その後、新川センターの方には製造・ものづくり系分野に対応できる学科を新設してはどうかと考えております。こちらは短期（6か月）でCADクラフト科を新設し、3Dプリンター、3次元CAD、汎

用機械操作などが習得できるようにしまして、アルミ、プラスチック、木材などを加工できる技術者を養成してはどうかと思っております。また、資格としてもCAD関係、各種製造業の現場でも使える技能講習や特別教育もしてはどうかと思っております。

1枚おめくりいただきまして、資料4-5でございます。こちらは砺波センターになりますけれども、現在、特色ある訓練科が未設置という状況でございます。砺波では今、OA関係と介護関係のみという現状で、新川にもものづくり系のCADの科をつくるというところで、砺波にも同様の科を設置してはどうかと思っております。ニーズ調査でも砺波センターへのCAD関連科の設置、あるいは設置されたら受講するかどうかも聞いておりまして、3割ほどという高い割合も出ておりましたので、そのように考えておる次第でございます。右側の見直しの方向性としましては、新川で御説明した内容と同じ内容の科になります。

続きまして、資料4-6でございます。造園管理科でございます。訓練科の概要としては、6か月で、主に中高年の方が受けるということが考えられると。樹木等の管理をする科になります。現状と課題は、入校者は低下傾向でございます。就職率も横ばいで、両方7割ほどというところ です。

ニーズ調査の結果は、先ほどと同様、土木・建設系の事業者様に聞いておりますが、人材充足度は造園管理・施工技術者が「不足している」の方が「足りている」より多い割合になっております。採用希望年代としましても、若手、中堅ですとかを希望されております。技専での育成希望の造園管理・施工技術者について、「希望する」という事業者の割合の方が「希望しない」よりは高いという結果が出ております。

こちらは個別ヒアリング等で聞いていた声ですが、事業者の声としましても、造園土木工事、エクステリア等の技能や、小型車両系建設機械の操作資格ですとか、そういった要望がございました。

また、求職者からも建設機械操作ですとか、そういった要望も個別にございました。

こうした調査を踏まえまして、また、この女性や若年者が造園だけではなく土木も含めて就職する機会を確保するために、建設IoTなどを見据えた訓練を充実するというふうに考えております。

見直し内容としまして、科名を造園土木施工科に変更した上で、造園の土木工事に必要な建設機械ですとか測量機器を活用した訓練というのをより一層拡充していきたいと。また、資格としましても、いろんな技能講習、特別教育の導入をしていきたいと。そこで、小型車両系建設機械、移動式クレーンなども使えるようにしてはどうかと思っております。

続きまして、資料4-7でございます。4-7と4-8がOA関係ですので、一括して御説明させていただきます。OA事務科、ビジネス実務科、パソコン事務科、簿記・会計科になります。こちらの現状と課題としまして、入校率はどこも非常に高いというところでございます。ただ、就職率は、本校かセンターかにもよりますが、7割から9割程度での推移になっております。

こちらのニーズ調査は、デジタル人材の充足度は先ほど申し上げましたとおり75%ほどが不足していると。また、デジタル技術活用による広報、求人活動、ネット販売ですとか、そういったことに取り組まれているか、あるいは今後取り組む予定という事業者さんが45%ほどございます。そうした業務に取り組む人材の充足度も66%が不足しているという状況です。

また、受講者の声として、求職者ですが、希望する職種は一般事務が38.2%と一番高くなっております。受講したい訓練もパソコン事務、OA、ビジネスというところで上位3つを占めておりますし、あれば受けてみたいコースというのでDX・IT関連技術の作り方、こちらはプログラミングになりますが3割強、デジタル技術を活用した広報求人活動、ネット販売は28%ほど、そういった技術の使い方、ソフトウェアですが、これも25%ほどという高い割合になっています。

こうした調査を踏まえて、まず、いろんなセンターでばらばらな科名というのが分かりづらいという指摘もありましたので、こちらを統一したいと。コース制も廃止して、コース内容を共通化すると。また、高度情報化、DXの加速という社会で基礎的なIT技術を活用できるよう、カリキュラムを充実してはどうかと思っております。

そのために、まず、4か月の訓練を6か月の訓練に延長したいと思っております。その上で、科名をビジネス事務科に統一をさせていただきたいと。訓練内容としまして、拡充内容としてSNS、ホームページの活用、あるいはソフトウェア、ネットワークの基礎、情報セキュリティ等ですとか事業所様で求められているようなIT技術が身につくような訓練ができたらと思っております。資格もITパスポートなどIT関連の資格取得を目指すというふうにできればと考えております。

この内容につきましては、4-7、4-8それぞれの学校で全て共通の見直しになります。

最後ですが、資料4-9でございます。介護関係になります。現状、訓練科としましては、2か月の短期の講習がございまして、初任者研修が取れるという講習になります。新川と砺波にございます。入校率は55%、68%というところで、少し低いのかなと。ただ、就職率は8割ぐらいで高いものになっております。

ニーズ調査は、介護・福祉系の事業所様に聞いておりまして、人材充足度はやはり不足していると。特に現場の介護員の方が4割超と。希望年代も若手あるいは中堅で、技専での育成希望は若手あるいは中堅の方について非常に高いと。DX関連についても聞いておりますが、例えば、介護報酬業務システムについては、多くの事業者様で導入をされていると。実務者研修が中止になると困るという事業者様は3割ほどになっております。

受講者としては、就職したい業種は医療・福祉が最も高いという状況でございます。

見直しの方向性として、基本的に現行のまま継続したいと。ただ、受講促進に向けた広報の強化をしていこうかなと考えております。また、DX関連技術への関心も高いというところで、こういう介護報酬業務もですが、介護記録作成等でのパソコンの使用というところで、パソコン・OAの基礎的な内容を追加してはどうかと思っております。プラス、ハローワークとの連携強化によるPRの工夫もしていきたいと思っております。

資料4の説明は以上になります。

最後に、資料5について御説明させていただきたいと思っております。

これは富山県技術専門学院をどのようなスケジュール感で見直していくべきかについて少しまとめさせていただいたものになります。

1番、考え方として、技専の見直しは、これまでは不定期に実施されてきておりますし、また、こういった審議会等の場でなくて事務的に内部でという話も多かったという状況です。ただ、近年、入校率、就職率も低下しているということで、産業構造、技術革新ですとか、こうい



う動向を敏感に捉えながら、サービスの受益者である企業の皆様、労働者の皆様の声をきちんと聞きながら、また、こういった審議会や検討部会のような場で皆様の意見を聞きながら見直すべきではないかと。そういった観点に立ちまして、定期的にこのニーズを詳細に把握することによって、PDCAサイクルを回しながら、定期的に見直しを実施してはどうかと考えてございます。

見直しの検討・実施時期としまして、本審議会でもずっと御議論いただいていた職業能力開発計画が5年に一度改訂されますので、そういった内容を踏まえる、あるいは、入校率、就職率の最新の蓄積されたデータも踏まえる、定期的に訓練ニーズ調査もやるということで、おおむね5年に一度程度、まずはこの見直しの検討部会において議論、検討させていただきまして、親会であります職業能力開発審議会に報告をさせていただきたいと。

見直しに当たって、この訓練ニーズ調査については、これからも必ず必要だろうということで、計画策定時の職業能力開発ニーズ調査と統合した上で、今後実施してはどうかと思っております。

また、本審議会についても、計画の進捗状況を議論、検討するために年に1回程度開催させていただいておりますので、その際に、この技術専門学院の訓練の在り方も併せて、今後は報告、御議論いただくとはどうかと考えている次第でございます。

事務局からの資料説明は以上でございます。

## ●議長

どうもありがとうございました。前回、5月24日にこの部会をつくりましょうということで部会を4回やっていただいたそうですけれども、その部会の設立に当たったメンバーですとか、検討の経緯、こちらのほうも少々御説明いただけるとありがたいです。よろしく願いいたします。

## ●事務局

部会についてでございますが、まず、参考資料3に検討部会の設置要綱がございます。この検討部会は、第1条ですが、職業能力開発審議会の下に置かれているものになりまして、部会の所掌としまして、学院の在り方、職業訓練に関する事、学院の新たな課題に関する事と、これをメインテーマとしております。委員としましては、10人以内で組織するようになっておりまして、その他、オブザーバーなども置くことができます。

参考資料4でございますが、こちらに部会の委員の名簿がございます。本審議会から労働者代表、事業主代表、学識経験者ということで、委員としましては7名の方を選任させていただいておるところでございます。このうち、DX関係の御知見というところで、本審議会の委員ではございませんが、特別に御参加をいただいております。また、オブザーバーとしまして、本日も御出席いただいておりますが、国の職業能力開発機関、あるいは内容とも関連してきますし、役割分担等もございますので、職業能力開発促進センター所長と北陸職業能力開発大学校長にもオブザーバーとして参加いただいていたということになります。

## ●議長

どうもありがとうございます。この参考資料4の方々が検討部会の委員として、見学も行っていただいて、さらにニーズ調査をしていただいて、案をつくっていただいて、今、事務局から御報告した案だということでございますけれども、検討部会の委員の皆様から何か補足ですとか、思ったとおりだったよとか、いや、というようなところがあればどうぞよろしくをお願いします。

## ●委員

今回、本当に対象がすごく幅広くて、調査の話もされていたので、すごく大変だったと思います。すごく沢山検討もされていて、ちゃんとニーズも見えていて、改善されていてとてもよかったですと思います。

1点、すぐには難しいかもしれないみたいな感じだったのですが、お願いしたいのは、資料4-7のOA事務とか、ビジネス実務のOA関連とかで、この辺とかを、一部でもいいのでハイブリッド受講ができるようにできると本当のよさにつながると思いました。

## ●議長

ハイブリッド受講というのは？

## ●委員

ハイブリッド受講というのは、直接対面じゃなくて、対面とオンラインを併用できるという。本当はオンデマンドができるとさらにいいですけど、オンデマンドは法律的に難しいというので、ハイブリッドで併用できると。何でそう思ったかというのと、そのニーズの中で、やっぱりリモートの希望がすごく多かったのです。何でリモートがいいかというのと、家が遠過ぎて通えないという人とか、あと、女性の方で子育てしながらあまり通えないという方が多かったので、そういう意味で不平等を改善できるというか。なので、これか、または外部の何のコースでもいいですけど、ハイブリッドのようにできるようにするとどうかなと思いました。

あと、個人的に思ったのは、溶接で今回いろんな現場へ直接、訓練校にも参加させていただいたのですが、溶接はそんなに人気ないのですが、実はすごく儲かると。お給料が物すごくいいということで、学生を募集するときにそういう経済面のメリットもアピールされるといいかなと思いました。以上です。でも、すごくよくなったと思います。ありがとうございます。

## ●議長

どうもありがとうございました。

ほかに。この部会は随分時間を使っていただいて、皆さんの御貢献は非常に大きかったと思いますので、何かここはこういうのがあったよなみたいなどころがあればお伝えいただけるとありがたいです。よろしくお願いたします。よろしいですか。

今回は、今年度4回にわたって部会のほうで検討していただいたんですけども、この問題点が、通常のものなのか、コロナの影響でここ2年急激に下がっているものがあるとか、そこはハイブリッドでできるところはやった方がいいんじゃないというところは、オンデマンドはやっぱり見たか見てないか分からないですし、それから、クエスチョン・アンド・アンサーができないと

いうのがありますけれども、現況のシステムからいいますと、3年前、4年前に比べますとオンラインの授業はほとんどの高校、大学でやっておりますので、そのところの障壁は非常に低くなってきたのかなと思いますけど、今は訓練の見直しのところにはどこかに書いてあるの。ハイブリッドをやった方がもっとみんな来るんじゃない？ というのと、それから……

●委員

ぜひできるところは。本当にほんの一部でもいいので。

●議長

オンラインだけではできなくて、だけでも、半分ぐらいオンラインで、半分ぐらい実習というのがあればいいのかなとか、そういう話ですか。

●委員

はい。あと、IT関連の科に対して、外注のコースだけでもいいので、何か一部でもオンラインやハイブリッドなどの希望に対して応えられたらいいかなと思いました。

●議長

事務局、よろしくお願いします。

●事務局

御意見ありがとうございます。

ハイブリッドの件ですけれども、調査概要、参考資料1にニーズ調査の報告書の抜粋、サマリーだけ載せさせていただいていますが、そのまとめの部分で、6ページの3. 訓練期間という箇所、受講方法が対面授業か、リモート授業か選べるようになると受講しやすくなるかという問いに対して57.1%が「受講しやすくなる」と回答していると。サマリーとしても、利便性を増すためにも、リモート授業の導入が望まれるとまとめておるところでございます。

技專受講におきましても、今回、コロナの感染者がかなり発生したりというところもあったりしたものですから、特にこの学卒者、高校を卒業した方々の2年の課程につきましては、既にコロナが広がったりした際にはオンラインでの訓練をかなり活用していたところでは。

このOAとか離転職者向けの訓練科については、まだ設備機器の導入等が進んでいない部分もあって、まだ十分にできていないところがございますので、まずはそういうオンラインでの訓練ができる環境を離転職者向けの訓練についても導入というのを検討していきたいというふうに思っております。

●議長

どうもありがとうございます。それはやるということ？ やらないということ？

●事務局

やる方向で検討していきたいと思っております。

## ●議長

多分、受け手側の方は、パソコンとかスマホはもう皆さんお持ちで、発信側が、今は大した設備じゃないですけども、その設備があれば、基本的にそんなに難しくないかなと。それが、もう今の時代、当然の話になっていきますので、そういうふうにやっていただくとありがたいかなと思います。

ほかに皆様の方から。どうぞ。よろしく願いいたします。

## ●特別委員

今回、部会の方にも参加をさせていただいて、今回、同じ職業訓練に携わる立場としてということ一言、お話しさせていただきたいと思います。

職業訓練そのものにつきましては、常に入り口と出口がやはり重要視されるものでありまして、とは言いつつも、市場ですとか時代ですとかニーズ、そういったものは常々変化をしていくものでありまして、やはり入り口、出口がある関係上、時代の先取りみたいなものというのはなかなか難しいというのが実は現状でございます。どちらかという、むしろ後追いになるケースが多くあります。

とは言いつつも、職業訓練の科なり訓練内容については、どうしても変化は必要なものである、見直しは非常に重要だと思っております。必要な人材を育成していくというのが職業訓練校の使命でありますので。ただ、見直しといっても、準備ですとか予算ですとか、場合によっては省令の変更、そういったものもいろいろな規制もあるものですから、そういったものを順次追いかけてながら、職業訓練を見直してやっていくという面で、行政、我々を含めて、なかなかスピーディーに対応できないというところが実態としてございます。

とは言いつつも、職業訓練の制度ですとか、科名、校名のPRというものは、こちらにも書いてございますけれども、必要だなというふうに改めて感じておるところでございます。

すみません、大した意見じゃありませんけれども、以上でございます。

## ●議長

どうもありがとうございました。

技専のこういう訓練の見直しというのは、5か年計画がありますよね。今回、11次のやつを出したわけですけども、10次のときも9次のときもやってるの。

## ●事務局

計画改訂時に必ずやるというふうには、これまではなっていなかったと思います。審議会で議論いただいたのは、平成18、19年の見直しのときが大きな見直しを最後だと。

## ●議長

じゃ、今回の見直しは結構大きいというか、今まで微調整しかやっていないことに比べるとちょっと大きいよねと、そういうイメージでいいですか。

●事務局

今回の見直しは比較的大規模な見直しをさせていただいているという。

●議長

委員の皆様、大変ありがとうございます。

ほかによろしいでしょうか。どうぞ、よろしく願いいたします。

●特別委員

工業立県富山の基盤的な人材育成事業として、技専の役割は非常に重要で、その発展にいかにか貢献するかということの大事さというのは、今さら言うまでもないと思っています。

ニーズ調査とか、根拠データが沢山示されているので、訓練の内容についてはそこそこ理解できました。

仕上がり像として育成すべき人材像をどのように技専ではお考えなのかということ、もう少しクリアにしていきたい。

個人的な意見は、クリエイティブな人材をぜひ育成すべきだろうと思います。自分で考えて問題を解決していくような技能者、ただの技能者じゃなくてクリエイティブな技能者の育成をひとつとしてめざされてはいかがでしょう。

検討部会でいろんな意見を反映していただき、ありがとうございます。ニーズ調査等、根拠に基づいて見直し案を検討していただき、御提案いただきました見直しの方向性等、素晴らしい取りまとめであると思、賛同させていただきました。ただ、資料4-3に、制御技術系というか、機械系の加工に加えて新たに設計とかそういうのが加えられていることは大変意義があると思っていますのだけれども、そのさらに基盤にある各種の測定ということが重要と思っています。言葉の中では一切現れてこないんですけど、設計のほかに測定ということも少々考慮していただく素晴らしい技能者育成に繋がるだろうと思っています。

定期的な見直しを行って改善に繋げていくことが重要で、技専がよりよくなるように、ぜひ実行していただきたいと思います。以上です。

●議長

どうもありがとうございました。定期的な見直しって、先ほどの事務局からの説明で、資料4の見直しの方向性、これは今御意見いただいているんですけども、その後どうするかって資料5ですよね。資料5も今日審議するんですね。

●事務局

はい、さようでございます。

●議長

分かりました。じゃ、今日の審議内容は、見直しの方向性、ちょっと計測の方も入れてよとか、そういう細かい調整はありますけれども、これと、それから、見直しを定期的に行っていきたいという資料5、これを皆さんの御意見をいただいて決めたいということでございます

ので、よろしく願いいたします。

### ●特別委員

どうぞよろしく願いいたします。やはり富山県のものづくりを支えていくためには、技専ばかりではなくて、北陸能開大ですとかポリテクセンターといった職業能力開発機関が連携していくことが大事でございます。今回の見直しも当然それを踏まえた上で役割分担を決めて、一番小回りが利く、技専が最先端の仕事をされるということと私も受け止めておりまして、これは非常に歓迎すべきことでございます。

ただ、1つ心配がございます。この先5年間の職業能力開発の問題でございますが、私どもの協会も含めて、職業能力開発に携わる者の財源というのは、雇用保険料でございます。雇用保険料というのは、今、事業主が従業員に支払うお金の1,000分の3になってございます。日本全国200兆円の給料が支払われております。その1,000分の3ということであれば、約6,000億円でございます。

この6,000億円を2つの使い道に使っておりまして、1つは雇用調整助成金でございます。皆様方はよく使われると思います。それから、私どもの職業能力開発でございます。景気がよいのであればほとんど雇用調整助成金は支出されず、四、五千億円が能力開発事業に使われるのでございます。それを財源にして、例えば、技専には交付金という形で入ってきますし、ポリテクセンターですとか能開大には運営費交付金という形で入っているわけでございます。私どもも補助金という形でいただいております。その余ったお金は貯金するわけでございますけれども、このコロナ禍以前には大体1.5兆円まで貯金がたまっていたわけです。ところが、この2年間で雇用調整助成金の支出が5兆円となりました。結局、赤字が出ておりまして、この会計は負債が過大になりまして、どこからお金を借りているかということ、失業等給付積立金からお金を借りておりまして、その残高が今2.6兆円になっております。だから毎年、6,000億円しか入ってこないのに2.6兆円の借金を抱えていると。

この4月からは1,000分の3.5に上げます。それでも7,000億円にしかならないわけでございます。今後、この借金返しをするために能力開発事業というのは非常に厳しくなるわけでございます。私どもが心配しているのは、そういったポリテクセンター、能開大、それから技専に対する運営に係るお金が削減されないかと。そうなりますと、新しく計画を見直して新たに機械設備を入れる、人材を雇う、そういったことに支障が生じるのではないかと不安がございます。その2.6兆円を返すには何年もかかる話でありまして、コロナが済んだから雇用調整助成金を支出する必要がなくなったから元に戻るんだというわけではございません。そういったことも踏まえて、きちんと見直しに際して必要なお金を、今後数年間にわたりますが、確保していただきたいということでございます。どうかよろしく願いいたします。以上です。

### ●議長

どうもありがとうございます。非常に根本的な御質問をいただきまして、県の方も答えづらいと思いますけど、事務局、いかがでしょうか。

●事務局

御意見ありがとうございます。御指摘のとおり、雇用保険財政は雇調金等の支出によって非常に厳しい状況にあるということだと思いますし、今後、数年にわたってその影響は続いていくだろうとは思っております。

ただ、一方で、こうした訓練関係というのは、今、政府全体でも人への投資といったことも叫ばれている中で、より一層重要性が増していく行政分野だと思っておりますので、そこは県としてもきちんと国にそうした財源の確保などについて要望していくことも必要ですし、必要な財源というのを自主投資してくれということはきちんと行っていく必要があるのではないかなというふうに思っております。

●議長

今のは大丈夫だよということなの。まあ、頑張るよということですね。

●事務局

もし何か補足等ございましたらよろしく申し上げます。

●特別委員

よろしく申し上げます。ただいまお話もありましたとおり、雇調金については皆さん雇用維持に活用いただきまして、全国で5兆円ということで、大変沢山のお金を使っているところです。国の方の財政も厳しいということで、これも皆さん御承知のとおりだと思います。その中で、先ほど事務局からの話にもありましたけれども、人への投資ということで、人材育成は非常に大事ということで、これも皆さん御承知のことだとは思いますが、なので、必ずしもその人材育成がないがしろにされるという意味ではなくて、むしろこれは大事だというふうに政府も分かっているところではありますので、予算もそれなりに確保されるのではなかろうかと思われまます。雇用保険財源が減っているというのも事実ではありますが、これからコロナの方がどうなっていくか分かりませんが、今後、状況を見ながら制度をどうしていくかというのは本省の方でも考えることだと思います。

きちんとした回答にはなっていないとは思いますが、人材育成は非常に大事というのは間違いないことではありますので、そういった声というのは機会を設けまして本省の方にも届けさせていただきたいというふうに考えているところです。こんな回答で申し訳ないんですが。

●議長

いや、とんでもない。どうもありがとうございます。ここで疑問がすばっと解決するような問題では全然ないと思いますので、背景を御説明していただいて、これから県のほうも、それから御支援いただくということを確認したということになると思います。どうもありがとうございます。

●委員

私は検討部会の方に入っております、DX専門委員ということで、デジタル系のところの関

連から、いろいろ見直しに意見を言わせていただいております。

本当に御存じのとおり、近年、DXという言葉が非常に言われるようになって、デジタルで大きな社会変革が起ころうとしていたりするわけですがけれども、一方で、その足元を見てみますと、富山県の基幹産業である製造業を中心に、なかなかまだそういったデジタル化というのは十分に進んでいないところも多くあるなというのを私もいろいろな仕事の中で実感しております。

先ほど大変よいことを言っていて、こういった職業訓練というのは後追いのところが非常にあるという一方で、デジタル化のところというと鶏と卵が起きていまして、やりたいしやらなきゃいけないのだけど人がいないみたいところがすごく多くなっています。私のような大学で選択教育をしている立場から言うと、非常に歯がゆいのは、幾らデジタル人材をつくっても、どうしてもそのユーザー企業ではなくてITベンダーの方にばかり行って、なかなかそういったユーザー企業、いわゆるサービス業であるとか製造業であるとかデジタルを使う側、使ってから新たな価値やサービスを生む側には行かなくて、なかなかその人材が増えなくて、ITベンダーばかりに人を配置しているという問題もあるなと思っています。

そういう観点で、こういった学卒者、求職者もそうですけれども、こういったコースの中で、もちろんITベンダーに行かれるケースもあるコースもありますが、幾つか話題になっていたビジネス系のビジネス実務科であるとか、あとは製造業のところこういったデジタルの観点が入ってきたのは、まさにそのユーザー企業さん側で働いていた方にデジタルの教育が行き渡るようになっていくというのは非常にいいことだなと思っています。

一方で、少し見直しの話とも関係するのですが、このようにカリキュラムを変えて今までと少し違った、そういったデジタル系の教育が入ってきた、その受講生の方々がそれをちゃんと活用した仕事に就けているとか、企業さん側でそれを意識してそういった人材を活用できたかどうかについて、この5年後の見直しというタイミングできちっと見ていく必要があるなと思っています。そこで、足りない部分であるとか、我々としたらそういう思いでこういう体系を組んだにもかかわらず、事業者さんの方が上手く活用できないのであれば、その mismatch を埋めていくというのが必要になるので、まずはその定期的な見直しには大賛成ですがけれども、そのタイミングには5年後に私も含めているか、みんな忘れていくか分からないですけれども、そういったことをきちんとやっていく必要があるなというふうに発言しておきたいなと思いました。以上です。

## ●議長

どうもありがとうございました。部会の方だけじゃなくて、こちらの審議会にも出ていただいて大変ありがたいと思っています。

それで、今のお話は、県立大学さんや高校さんや、それから、高専の話からいくと、卒業生のフォローですね。ちゃんと卒業生が働いているの、ちゃんと上手く現場で教えた技術を活用しているのということなんですけど、これは参考資料1で、事業者と求職者と高校生と技専の修了生に対してもアンケートを取っていますよね。ここら辺、少し県の方から御説明いただきたいと思っています。よろしく願いいたします。



●事務局

御意見ありがとうございます。参考資料1の修了生の方に聞いた部分ですが、4ページの一番上の方でございますが、技専修了生の入校した理由や動機は、「技能や技術を身につけられるから」が73.7%、「資格を取れるから」が58.6%、「訓練内容に興味があったから」が58.3%となっております。修了生の9割以上が満足しているという結果が出ておりました、理由として、「技術や技能が身についた」、「資格が取れた」、「いい先生や仲間に出会えた」というのが高い割合になっていまして、修了生の方で今回アンケートに答えていただいた方については、多くの方が目的を達成していただいているのかなと思っております。

こうした形で、今後の訓練ニーズ調査においても、やはり修了生の方にも確実にこういう形で調査を行って、特に今回のDX関係とか、そういったことを今回取り入れておりますので、そういったところもきちんと生かした仕事ができているかですとか、そういった選択肢や項目を設けて、そういったところもフォローアップしていきたいというふうに思っております。

●議長

よろしいでしょうか。

●委員

はい。

●議長

ここの下の方の、今事務局が御説明いただきました4ページの訓練コースの満足度、企業さんのほうも満足しているし、それから、修了生の方もある程度満足していると。また質問の仕方は次回また検討すると思えますけれども、一応そこそこきちっと出ていますよという話です。どうもありがとうございます。ほかに皆様の方から。どうぞ。

●委員

科名の変更のことについてなんですけれども、この科名の変更は、イメージアップに繋がるのでとてもいいかなと思っております。それで、内容に即して変更されている部分が結構あるかなと思うのですけれども、私は、この入校率の低い科の科名を変更してもう少しイメージアップに繋がらいいかなと思っております、例えば、この木材加工科なんですけれども、何となく古いようなイメージがありますので、例えば、クラフト木材加工科とか、そういうようなものや、電子のところとかもプログラミングみたいな、直接その内容が分かるような科にネーミングを変更してみてもいいのではないかなということを少し思いました。以上です。

●議長

どうもありがとうございます。どうぞ、事務局。

●事務局

御意見ありがとうございます。木材加工につきましては、木材加工科とエコ住宅リフォーム科、

新川のものを再編統合いたしまして、木材加工科自身は名前としてはもう廃止をさせていただくことになっております。木材加工の要素については、クラフトというふうな御意見をいただいたところですが、CADクラフト科というところで、CADがメインにはなるんですが、木材だけではなくてほかのアルミ、プラスチック等いろんな部材含めてですが、そういったものを加工できる人材を育てられる科ということで再編したいということでございます。

プログラミング等につきましては、一応、今、電子情報科ですし、改編後は電子情報／I o T科になりますが、こちらは元々情報というところに寄った名前にしてございまして、あえてソフトウェアとかのプログラミングだけではなくて、富山県はやはり製造業が基幹産業ということもありまして、製造業でのそういうハードウェア技術なんかを身につけられるという科にすべきだろうということでこの電子情報科という名前にした経緯もございまして、どうしても富山県内できちんと就職いただきたいということも考えておりますので、今のこの電子情報というのをベースに、このI o Tというのを付け加える科名の変更とさせていただいたところでございます。

●議長

よろしいですか。

●委員

はい。

●議長

どうもありがとうございました。ネーミングは非常に重要なのですけれども、入口側から考えると、やっぱり学生がここカッコいいなという名前が入ってくるのですけれども、出口側からすると、やっぱり分かりやすく、産業分野の名前が分かった方がいいというところもあって、少しそこら辺は難しいところです。

どうもありがとうございます。一応、CADクラフト科というところでネーミングは進展しているということです。

ほかに皆様の方から。どうぞ。

●委員

私がこの見直し案についてお話しできますのは、資料4-9になりますが、介護サービス科についてでございます。資料にもありますように、介護の業界は、この技専のみならず、やはりなかなか応募する人が少ない。しかし、実際は就職するには非常にどの教科においても本当に非常に期待されているところです。

そういう意味で、特にこの見直しの方向案について、特別なことを申し上げるわけではないのですが、この方向案の中で強調されております介護記録の作成に関するところは、実は教科の中にはございません。初任者研修の時間の中で、このパソコンとかタブレットの操作に関しては組まれていないので、そういう意味において、これからも、募集のときにハローワークさんとの連携とありますが、短期間であったとしても基本的な記録の管理ということが出来るコースもあるということをお付けしていただくのは大事かなと思っています。現場では、記録はもうそろそろ手

書きではなく、タブレットやパソコン入力になりつつあります。看護の世界に近いですね。そんな状況になっておりますので、ぜひ今回、見直し案の中に出ていますような、そういったパソコンやタブレットを活用している教育機関ということを強調していただければと思います。何でこんなことを言うかということ、現場で進めたくても進められない理由があります。介護現場に若い人もいますが、一方ではかなり中高年者の方々も多くて、使えない、分からないということをおっしゃいます。この技専の介護コースの受講者年齢がそこそこ高い方々が多いのが現実ですので、そういった方々でも利用できるような形にいただければいいかなと思っております。

それともう一点、ここに見直し案に関する意見とは異なりますが、介護に関しては講師の質についてです。ほとんどの講師は外部の方々に来てもらうのですが、もう少しだけ検討していただくといいかなと。要件さえ満たせば誰でもいいというのは少しだけこの業界では不適切かと思っています。やっぱり介護というサービスは人に対する支援なので、やはりそのところに着目していただいた人を選んでいただくのが、結果としては、介護の場合は、就職率8割ですので長く勤めていただく人材を育てるのではないかなということで、これはまとめ案とは関係ないですが、少しだけ余分なことをお話しさせていただきました。以上です。ありがとうございます。

#### ●議長

どうもありがとうございます。介護だけではなくて、先生の質、講師の質、これはもうどの職業訓練、それから教育分野でも重要ですので、それは先生自身も、それから講師自身の教育ですとか訓練ですとか、そちらの方も当然、高校ですとか大学ですとか、そこをやっておりますので、ぜひ技専さんの方もそれをやっていただきたいということではないかと思えます。

それから、iPadだとかそういうのはもう普通なんだけれども、自分のスマホだとか、そういうところでやるというようなところはやってないんですか、介護では。

#### ●委員

自分のスマホではないですね。記録は共有しなきゃいけないので、自分のスマホでやることはないです。ただ、事業所から付与されたタブレットやスマートフォンで、利用者の家族さんにも情報を届けなきゃいけない状況で、記録は開示を求められますので、基本的に個人のもの使わないです。記録は個人情報なので。

#### ●議長

訓練のときの話で。

#### ●委員

ああ、訓練。

#### ●議長

実際のところは、当然、特定される情報があると思いますから。

## ●委員

どのようなことを訓練させるか、ここに書いてある介護報酬のことは現場職では今やりません。ただ、記録ということについて、自分のスマホで入力するということは可能かもしれません。それは、要するに、読んで分かる記録を書くという訓練ですね。それはできるかもしれません。

## ●議長

どうもありがとうございます。すみません、そろそろ時間が来てしましまして、いつも事務局から渡される資料には意見がなかったらこの人とこの人とこの人を指してねってあるんですけど、その方々にも今日御意見いただきましたけれども、意見が出ないということは心配がないぐらい活発に御意見をいただきまして、大変ありがとうございます。

事務局にお返しいたしますので、この資料4と資料5については、今回、この会で了承されたという方向でまとめていただければと思います。よろしく願いいたします。

## ●事務局

会長、どうもありがとうございました。

それでは、事務局より事務連絡を申し上げます。本日の議事録については、事務局で取りまとめ、委員の皆様のお発言の内容についてそれぞれ御確認いただいた上で、富山県のウェブサイトに掲載をいたしたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

それでは、これをもちまして、令和3年度第2回富山県職業能力開発審議会を閉会いたします。お疲れさまでした。

— 了 —